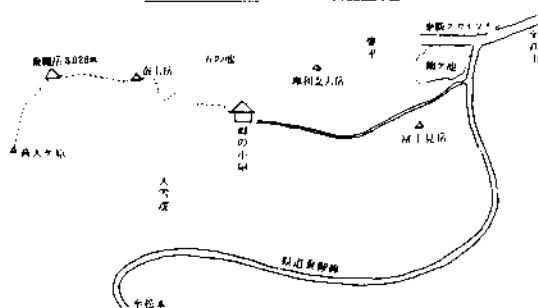


乗鞍岳における植生推移調査と保護管理について(中間発表)

松本営林署大野川担当区事務所 飯 森 強
" " 松 尾 武
" " 竹 中 三 成

乗鞍岳の位置及び概要について

乗鞍岳の位置及び概要



乗鞍岳は松本市の西南西約6.0 Kmの位置にあり、標高3,026 mで木曾の御嶽山と同じく独立峰です。また北アルプスの最南端で中部山岳国立公園に含まれています。

昭和38年長野県側に県道乗鞍岳線が、また47年岐阜県側に乗鞍スカイラインが山頂付近までそれぞれ開通し

たことにより子供から年配者まで登れる観光山岳となり、人込者が増加しています。乗鞍スカイラインは、自然保護を重点とした新しい工法で行われ、平湯峠から約20 kmあり、40分で、ハイオン群を走り抜けるのは爽快そのものです。

利用客についても季節的に多少の相違があります。夏季は大雪渓に降りて夏スキーができるため若者が多く、また夏休み時期と重なり、家族連れも多くなっています。初秋の紅葉の時期には一般に年配者が多くきます。このようなことから高山植物の被害状況についても時期によって差異があります。夏期には、スキー疲れ等で植物群落に立入り寝ころんでいるものが多く、踏み荒らし、つみ取り等、若者家族連れの被害が多く、また初秋には年配者が多くなるため石の持ち出し等が多くみられます。

乗鞍岳は、車で登れる山であるため植物等の被害も多く、これからも保護指導は一層強化すべきものと思われます。

1 調査の目的

高山植物に対する人為被害が多いことからコマクサ、トウヤクリンドウの二種類について、自然環境下における推移(増減)調査を行い、保護管理に役立てるものです。

昭和48年度に着手し、昭和52年度までの5年にわたって調査するものですが、本年度で3年が経過したので、今回中間発表をすることとしたものです。

2 調査の方法

コマクサ及びトウヤクリンドウについてそれぞれの調査区、対照区のプロットを設定して発生本数の調査をしたものです。調査区については比較的立入者の多い場所、対照区については比較的立入者の少ない場所を選定しました。

(1) コマクサについて

コマクサは、一般に高山植物の女王といわれ、他の植物と混生せず、砂礫地に生育し、横を歩いただけでも損傷する程弱いものです。被害状況は、花が華麗であるためつみ取り、踏み荒らしの人為被害が多くなっています。

調査区は、栗鞍岳の外輪山蛭玉岳下方60m、標高2,950m、傾斜24度の位置、設定面積50㎡で、登山道に近いことから立入者が多く、被害も多くなっています。

対照区は、栗鞍岳から野麦峠に至る下方100m、標高2,875m、傾斜18度の位置、設定面積100㎡で、登山者がほとんどないことから被害は少ない。

(2) トウヤクリンドウについて

トウヤクリンドウは、秋を告げる高山植物の一つで、かつては薬草として採取されていたようですが、最近はやはりつみ取り、踏み荒らしが多くなっています。

調査区、対照区とも肩の小屋付近で、設定面積は各々16㎡です。調査区は、肩の小屋から3m、標高2,760m、傾斜8度の位置で、大雪渓への歩道があり、踏み荒らしが多く見受けられます。

対照区は、肩の小屋から20m、標高2,770m、傾斜7度で、地形的に被害の少ない所です。

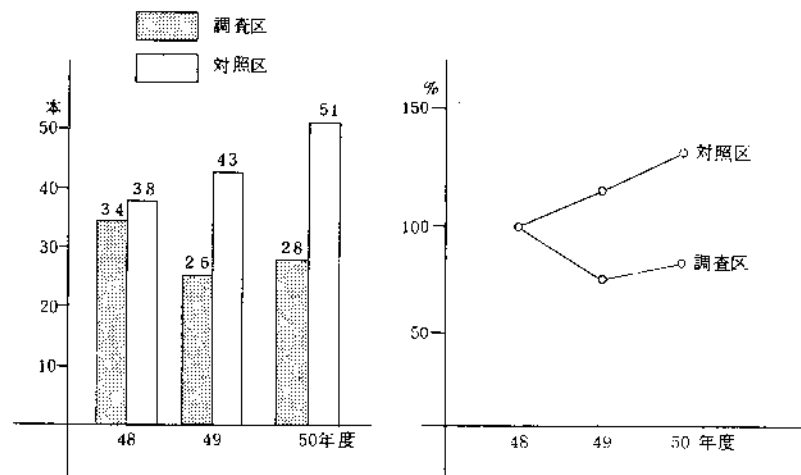
3 調査結果

(1) コマクサについて

調査区の発生本数をみると、昭和48年度34本、昭和49年度26本、昭和50年度28本となっています。昭和48年度を100%とした場合、昭和49年度76%、昭和50年度82%となり、立入者が多いことから減少傾向を示しています。しかし、昭和50年度は昭和49年度に比べ多少増えており、保護PR、パトロール等で、保護意識が高められたものと推定されます。

対照区の発生本数をみると、昭和48年度38本、昭和49年度43本、昭和50年度51本となっています。やはり昭和48年度を100%とした場合、昭和49年度113%、昭和50年

コマクサ

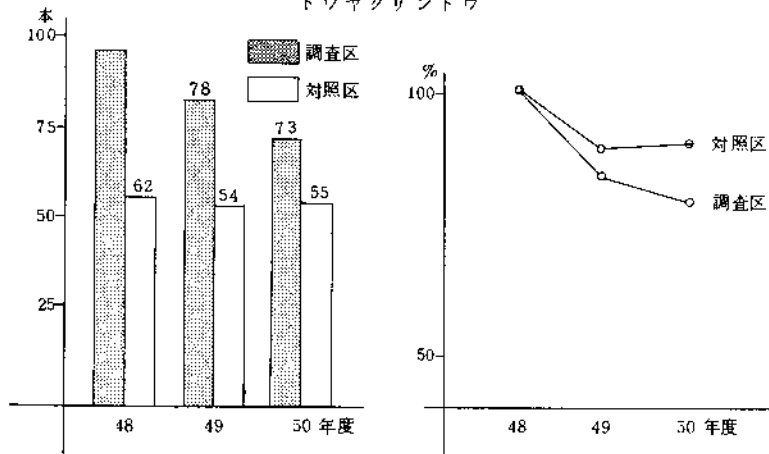


134%と立入者が少ないだけに増加しています。調査をしてわかったことですが、一般に小さいものが多く発生していました。

(2) トウヤクリンドウについて

調査区の発生本数をみると、昭和48年度95本、昭和49年度78本、昭和50年度73本

トウヤクリンドウ



となっています。昭和48年度を100%とした場合、昭和49年度82%、昭和50年度77%と減少しています。減少原因ですが、大雪溪への歩道があるため踏み荒らしが主原因と推定されます。

対照区の発生本数をみると、昭和48年度62本、昭和49年度54本、昭和50年度55本となっています。やはり昭和48年度を100%とした場合、昭和49年度87%、昭和50年度89%と減少はしていますが、調査区ほど著しくないようです。減少した原因は明らかではありませんが、登山道に比較的近いことなどから、多少の踏み荒らしがあったのではないかと推定されます。しかし昭和50年度は昭和49年度に比べて多少増えており、パトロール等の効果によるものと思われ、今後の調査に期待するものがあります。

4 今後の調査について

この推移調査は、一応5年間の調査をすることになっていますが、3年あるいは5年でははっきりした結果は得られないと思います。したがってより正確なデータを得るためには、10年間位は続ける必要があると思います。また分布調査等も併せて行えば、興味ある結果が得られるのではないかと思います。

5 保護管理の状況について

乗鞍岳は、夏山シーズン中延50万人以上にのぼる登山者があるため、当署のグリーンパトロールを中心とし、高山植物等保護対策協議会の委嘱指導員や地元団体等のパトロール、延200数名を投入して高山植物等の保護管理を行うとともに、隣接高山営林署とも連携を密にし、シーズン中1～2回の公開取締りを合同で行っていますが、表のとおり人為被害が多く発生しています。推移調査の結果でもわかるように、対照区は調査区に比較して、コマクサでははっきりと増加の傾向をみせています。トウヤクシンドウについても減少はしているが調査区程著しくはないという結果がでています。高山植物は立入者がない所では増加しています。したがって高山植物をより一層保護していくためには、保護管理の期間をより長くするとともに、登山者の立入ると思われる箇所には、防護柵等の防護施設を設け、また高山植物の弱さといったものを積極的にPRし、保護していかねばならないと思います。

被害状況

松本営林署

種別 年度	計		始末書		嚴重注意		注意指導		巡視(パトロール)		備 考
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	人員	延人員	
48	1,098	2,767	31	35	460	1,298	607	1,434	21	269	担当区 1人 167人 アルバイト 3人 67 心 援 14人 35
49	913	1,711	57	126	151	353	705	1,232	11	167	〃 3人 55 〃 4人 100 〃 4人 12
50	692	1,462	31	96	450	950	211	416	24	208	〃 2人 30 〃 4人 81 〃 18人 97

高山営林署

種別 年度	計		始末書		指 導		巡視(パトロール)		備 考
	人	員	人	員	人	員	人員	延人員	
48	6,502	2	536		5,966		68	491	駐 在 2人 164 アルバイト 6人 138 そ の 他 60人 189
49	5,265		411		4,854		29	500	〃 5人 250 〃 11人 204 〃 13人 46
50	5,922		579		5,343		39	572	〃 5人 268 〃 10人 208 〃 24人 96